

熊本市 感染症発生動向調査 速報

●麻しん(はしか)について

◆感染源

麻しんは伝染性の強い急性発疹性のウイルス感染症で、感染者の気道分泌物(鼻、咽頭、口腔からの飛沫、飛沫核)による空気感染、飛沫感染などにより感染します。

◆症状

潜伏期間は10～12日で、主な症状は38℃前後の発熱、咳、鼻汁、結膜充血、目脂、発疹などです。また、合併症として肺炎、脳炎などを来すこともあります。特別な治療法はなく対症療法が中心となります。一度、典型的な麻しんを発症した人は、通常、終生免疫が獲得されます。

◆予防方法

麻しんは感染力が非常に強いため、麻しんの流行している地域に渡航する際には、日本へ麻しんを持ち込まないためにも、事前の予防対策が重要となります。このため、これまで予防接種を受けていない方や、1回しか接種を受けていない方には、麻しん風しん混合ワクチンの接種が勧められます。かかりつけの医師に相談してください。

なお、平成18年4月から定期の予防接種は、生後12月から生後24月に至るまでの間にある小児(1期接種)及び小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある5歳以上7歳未満の小児(2期接種)に対して実施しています。(接種履歴は親子(母子)健康手帳を確認してください)

※外務省海外安全ホームページより(海外へ渡航される方は、こちらのサイトを確認されることをお勧めします。)

過去5年 麻しん(はしか) 感染症届出数

	平成28年 2016年	平成27年 2015年	平成26年 2014年	平成25年 2013年	平成24年 2012年
熊本市	1	0	1	0	0
熊本県	1	0	2	0	0
全国	165	35	462	229	283

平成27年3月27日、WHOにより、日本が麻しんの排除状態にあることが認定されました。しかし、その後も海外からの輸入例を発端として、集団発生事例は起こっています。



●関西国際空港を利用した方が麻しん(はしか)を発症したとの情報が他県からありました

平成29年3月28日早朝に関西国際空港を利用した方で、4月17日(月)までに発熱、風邪症状、皮疹等の症状が出現した場合は、麻しんによる症状の可能性があります。受診をする際には必ず事前に医療機関に連絡を行ってください。

期 間		平成29年 第12週		平成29年 第13週	
		3/20～3/26		3/27～4/2	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	流行中	222	8.88	180	7.20
RSウイルス感染症		0	0.00	4	0.25
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.31	7	0.44
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		41	2.56	40	2.50
感染性胃腸炎	!	80	5.00	56	3.50
水痘(みずぼうそう)		9	0.56	5	0.31
手足口病		3	0.19	8	0.50
伝染性紅斑(りんご病)		1	0.06	1	0.06
突発性発しん		6	0.38	7	0.44
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		5	0.31	6	0.38
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		4	0.80	5	1.00
細菌性髄膜炎		2	0.40	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	2	0.40